

「非常時日本」に“教化”を掲げ、 1930年代から拡大する総力戦体制を 下支えした『教化運動』がいま、 その全貌を明らかに！

時々刻々と激烈さを増す戦況を背景に、人々の意識、
生活はどう変わったのか、どう変えられたのか……

第1回配本後、新たに発見された資料を
「補遺」として追加。『教化運動』の実態に迫る！

復刻にあたって……

社会教化活動の充実と拡大を目指した教化団体連合会は、1928（昭和3）年に中央教化団体連合会となった。その後日本はもとより、朝鮮、台湾、南洋など植民地化の教化団体連合会を傘下におさめる。同会は全国各地で行われる大会や講演会、教化町村の指定、功労者の選奨を通じ、国民の「思想善導」を企図し、1930（昭和5）年に10頁程度のタブロイド判である機関紙『教化運動』を創刊した。『教化総動員運動』『国民更生運動』『選挙粛正運動』、さらには「国民精神総動員運動」へと突き進む巨大なうねりを、多彩な政治家、官僚、宗教者、文化人による論説、全国各地の教化状況を伝えつつ展開した本紙こそは、近現代史における必要不可欠の資料である。

解説 須田 将司（東洋大学教授）
推薦 井上 寿一（学習院大学教授）
前田 一男（立教大学教授）
米田 俊彦（お茶の水女子大学教授）

復刻版 教化運動

全6巻・別冊1

想定価—本体170,000円＋税
体裁—B4判／上製／総約2,690頁

不二出版



■紙面には地方ごとの詳細な活動情報が満載。
右は中央教化団体連合会の会長や理事長として
活躍した、斎藤実（1858-1936）、山川健次郎
（1854-1931）、留岡幸男（1894-1981）。

配本—— 第1回配本（第1-3巻）／総1074頁／本体価 84,000円＋税 ISBN978-4-8350-8254-7 [2018年11月刊]

収録内容：『教化運動』第5～151号、『中央教化団体連合会報』第7・8号

第2回配本（第4-6巻）／総1340頁／本体価 86,000円＋税 ISBN978-4-8350-8258-5 [2019年9月刊]

収録内容：『教化運動』第1～4、6、152～297号、『中央教化団体連合会報』第5号 ※ただし第1回配本開始後に発見された資料は「補遺」として第6巻に収録。

別冊——『教化運動』解説・総目次・索引／並製276頁／本体価3,000円＋税 ISBN978-4-8350-8263-9（別冊のみ分売可）

底本——中央教化団体連合会発行『教化運動』第1～297号（1930年8月～1944年3月）※臨時号・号外も含む。※第90・184・203・219号欠。※13号分の「近畿附録」も収録。
中央教化団体連合会発行『中央教化団体連合会報』第5・7・8号（1928年12月～1929年12月）

昭和戦前史の
第二級の再発掘史料

井上寿一

メディアの「新史料発見！」のスクープ情報は鵜呑みにしない方がいい。たとえ新発見であっても、日本近代史の通説をくつがえすようなこととはないだろう。すでに膨大な研究の蓄積がある。主な史料も利用に供されて久しい。

それでも通説的な理解の見直しと歴史の全体像の修正につながる史料は存在する。それらは「新発見」ではなく、再発掘された史料である。同時代においてはよく知られていた。しかし今では参照困難で、忘れ去られたに等しい。そのような史料がある。

復刻版『教化運動』はこの意味での再発掘された重要な史料として、昭和戦前史を再考する多様な手がかりを与えてくれる。

例を挙げる。なぜ満州事変は拡大して日中戦争に至ったのか。この問題は政治史・外交史の知見だけでは十分に説明することができない。なぜならば第一次世界大戦後の「平和とデモクラシー」の行き過ぎに対する反発が背景にあったからである。別の言い方をすれば、歴史社会学や社会史研究の知見を得ることで、この問題を説明することができる。この観点から『教化運動』は第一級の重要な史料である。索引が付く復刻版は利便性も高い。

第一級の史料は多様な利用の仕方を許容する。本史料の刊行によって、昭和戦前史をめぐる学際的な研究が進展することを願う。

(いのうえとしかず)

学習院大学学長 学習院大学教授

政治史・外交史のみならず、歴史社会学や社会史研究の知見を得るためにも第一級の重要史料

井上寿一

排除の弾圧政策と異なる、総力戦体制への包摂の構造を明らかにするために

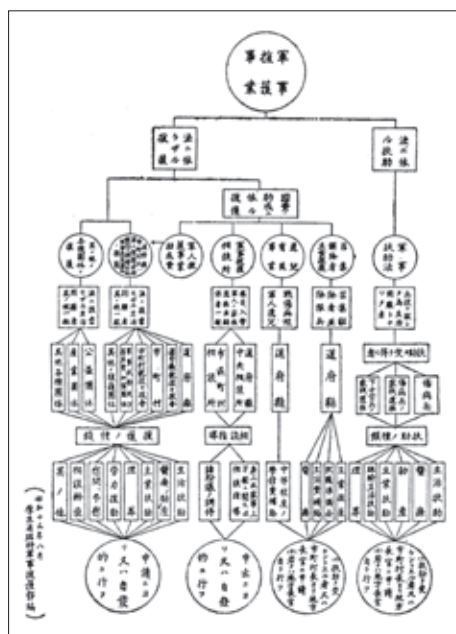
前田 一男

総力戦体制下の
教育の解明に向けて

前田 一男

教育史における一九三〇年代の研究が求められている。大正自由教育と戦時下錬成教育をつなぐ時期の研究である。大正期、教育方法の革新と教育の自律性が模索された実践が、戦時下においては、なぜ自律性を放棄するかのごとく教育に転換していったのか、その課題に教育史研究は十分に答え切れていない。従来の思想統制という政策動向に、反体制的な教育労働運動が弾圧されたという図式的な説明では、十分な説得力を持ちえなくなっている。

その点で、学校教育にとどまらない教化総動員運動は、改めて注目されなければならない文部省の政策動向である。昭和初期の世界大恐慌の影響により、経済的社会的な危機に陥った政府は、国内の階級対立の克



軍事援護事業のさまざまな展開を图示。吉富滋「軍事援護事業に就て」本紙『教化運動』第211号より。

服と思想統制とに力点を置きながら、公教育の改編・補強を推進していった。教化総動員運動はその端緒であり、それ以後国体明徴運動、国民精神総動員へと展開していくことになった。その中心的な担い手になったのが中央教化団体連合会であった。その機関紙『教化運動』は、一九三〇年から一九四四年という刊行時期といい、植民地までも対象にしたその組織化の広がりといい、社会教化活動の実態を余すところなく表現している。

(まえだ かずお・立教大学教授)

教化運動関係資料の宝庫

米田俊彦

本紙は教化に関する情報・宣伝紙といった性格の新聞である。植民地を含めた各地の教化に関する事業や活動の紹介記事が豊富である。記事の見出しが工夫されているので、紙面を見ていて飽きない。「農村の人々への糧を与へる 鹿児島県映画連盟」「知恩院に泊り込み精神修養京都府農業練習所」といった具合である。三〇ページ前後の臨時号で各教化町村の活動内容が詳細に紹介されている。教化関係の図書やパンフレットの広告も豊富である。

私は、戦時下におけるこの種の活動では、「錬成」の語が頻繁に使われるものと思ひ込んでいたが、「錬成」は行事の名称に出てくる程度で、一貫して「教化」が使われていることを知ることができた。

さまざまな団体の連合体であるから、活動の内容もさまざまで、登場人物も多岐にわたるが、とくに二二六事件で殺害された斎藤実会長は別格扱いされている。また、日本精神論や皇国史観を振り撒いていた論客があまり登場しない。本紙が活用されることにより、この時期の教化をめぐる思想や活動の展開過程がさらに解明されていくことが期待される。(よねだ としひこ)

お茶の水女子大学教授

本紙によって、この時期の教化をめぐる思想や活動の展開過程がさらに解明されるだろう

—— 米田俊彦

小社関連図書

『斯民』復刻版 (中央報徳会編) 全38巻・別冊1

1906(明治39)年から1946(昭和21)年までの全471号を復刻。二宮尊徳の「報徳」理念に基づき、「道徳と経済の調和」を目指した内務、農商務、文部各省の官僚と地方行政官の軌跡を跡づける基礎資料!【残部僅少】

- 別冊=解説(金澤史男)・解題(酒田正敏)・目次総覧
- 体裁=A4判・上製・総14,200頁
- 揃定価=揃本体768,000円+税[全8回配本]

※詳細はHPをご覧ください。

表示価格はすべて税別です

不二出版

〒112-0005

東京都文京区水道2-10-10

TEL 03-5981-6704

FAX 03-5981-6705

振替 0016002940084